



国際化の最前線から



就労者に対する オンライン日本語教育

特定非営利活動法人日本語教育研究所 理事長 西原 鈴子

2020年に新型コロナウイルスのパンデミックによって急速に普及することになったオンライン教育は、NPO法人日本語教育研究所の日本語学習者支援事業にとっては「新たな」挑戦ではなかった。2003年にNPO法人化して以来、継続的に取り組んできた日本語教育の重要な選択肢だからである。年々多様化する海外出身就労者の日本語学習ニーズと彼らを雇用する企業が彼らに求める日本語能力ニーズに対応するためには、すべてのステークホルダーに対してきめ細かな学習計画を提案し、納得してもらえる目標設定に基づいた実践が求められる。そのためには、ICTを駆使すると同時に、それを効果的に活用する教育実践の開発が急務だったのである。

オンラインでの教育実践は顕著なメリットをもたらした。第1に、Web会議システムなどによって学習者との地理的距離の問題が解消した。例えば、内定後来日前の海外在住者に対する入社前日本語支援、複数の支社に勤務する社員への日本語支援などの場合に、地理的距離を気にせずにシラバスを展開することができるようになった。第2に、学習場面にさまざまなメディアを導入することによって、複数の教室活動の組み合わせが可

能になった。事前課題に取り組んでから授業に臨む反転授業もその一例である。また、学習者への一斉対応、グループ対応、個別対応が瞬時に切り替え可能になった。第3に、学習者自身が仕事におけるコミュニケーション上の必要性を具体的に可視化できるようになった。それによって更なるレベルアップへの動機付けへと繋がっていく効果を生んだ。

地球規模で学習者と対峙するのは喜びであると同時にチャレンジでもある。時差の壁が立ち塞がるのは避けられないし、常に更新されるICTに目を光らせ、学習ニーズに応えるために柔軟にカリキュラムに取り入れる努力が要求される。オンライン教育に従事する教師は休むことがないのである。

日本語研修でのビジネスマナー

日本語教師が担当するビジネスマナー研修とは？

ことばの指導にマナーを織り込む



はじめまして。
どうぞよろしく
お願いします。



おじぎを指導 → 自己紹介のことば+おじぎを指導

画面共有された教材：ビジネスマナーとルール

プロフィール

西原 鈴子 (にしはら すずこ)
神奈川県出身。米国、インドネシア、オーストラリアでの日本語教育実践の後、国立国語研究所、東京女子大学、国際交流基金日本語国際センターにおいて研究と日本語教師養成に携わる。日本語教育学会会長、文化審議会会長などを歴任。2018年度から現職。



オンライングループレッスン風景